



毎週金曜



学生たちに強く望みたいことがあります。それは、行動に向けて一歩踏み出してほしいということ。まちづくり活動が活発で、地域の現場でのフィールドワークの盛んな大学にいても、そう思いま

す。いえ、課外の活動や学習機会が豊富にあるからこそ、自発的に参加しない学生、できずにいる学生が目につく。のかもしれない。

### 学生と保護者の皆さん

伊藤真知子  
東北公益文科大副学長



## 行動へ一歩踏み出そう

から活発な学生たちは、比較的早く企業の内々定を手にしていきます。他方、志望業種が絞れないから、自己分析ができていないからと、いつまでも行動を開始できない学生が少なくありません。企業説明会に足を運び、エントリーシートを書くという行動を通じて、自らの考えや志望は形になっていくのですが、

迷ったら、退くのではなく、一歩前に踏み出してほしい。行動せずに後悔するより、行動したほうがよい。たとえ満足のない結果にならなくとも、振り返りの反省する(こと)で、



前進できるはず。もちろん、しっかりと考えることは大切です。その昔私も、「考えてからでないと歩き出せない」と言われました。

それがいつの頃からか、考えながら歩き、ときには走り出してから考えています。変化の激しい時代に身につけざるをえない知恵なのか、

「参加してみたいな」「私にもできるかな」と少しでも思ったら、実際にやってみようではありませんか。この言

す。そうした学生たちを教員は、専門性をもつ教育者として支援していきたいと思いま



環境都市工学部の学生らが改修した民家で地元の人たちと懇親会をする(昨年12月26日、兵庫県丹波市青垣町佐治) 永尾泰史撮影

ご意見は、〒100・8055読売新聞東京本社「大学取材班」へ。  
ファクス03・3217・9908、メールdaigaku@yomiuri.com

や、丁  
子の分  
いた  
ンカラ  
り、関  
当時